

熱中症対策への取り組み

公益財団法人 全日本軟式野球連盟

1. 対策への取り組み指針

- ・スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック（日本スポーツ協会）
（公財）日本スポーツ協会ホームページ 「熱中症を防ごう」を参照
<https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html>
- ・環境省熱中症予防情報
<https://www.wbgt.env.go.jp/> ← 環境省 熱中症予防情報サイト
- ・JSBB 危機管理マニュアル（全日本軟式野球連盟）
<https://jsbb.or.jp/rule/>

2. 競技運営に関する注意事項

- ・熱中症対策として、保護者2名以内がベンチに入ることができます。
- ・熱中症対策として、ベンチ内への電池式の扇風機の持ち込みを認めます。

3. 周知事項

- ・監督・主将会議で周知徹底をはかる。
- ・オーダー交換時に監督・主将に予防と対策を周知する。
- ・役員・審判員は常に注意をしながら試合進行にあたる。

熱中症対策について

■熱中症対策（1）

各選手の体調を把握し、寝不足、食欲不振、特に当日食事を摂らない選手がいないように、チーム関係者は特に注意をお願いします。

■熱中症対策（2）

試合中や式典中に具合が悪くなった選手がいる場合、監督またはコーチ等のベンチ入りチーム関係者が当該の選手に付き添い医務室まで同行してください。

JSBB 熱中症予防対策ガイドライン

令和 6 年 7 月 9 日

■JSBB 暑さ指数に係る実施方針

熱中症予防運動指針 (WBGT°C)		JSBB 熱中症予防対策指針	会場 (試合会場等) での対応
JSPO	環境省		
	35°C (予測値)	試合の中止	当日の会場での WBGT 計測により試合の中止・順延を判断する。
参考：熱中症特別警戒アラート発表			
	33°C (予測値)	試合の中止	当日の会場での WBGT 計測により試合の中止・順延・時間変更を判断する。
参考：熱中症警戒アラート発表			
31°C以上 運動は原則中止 ※特に子どもの場 合は中止にすべき	—	原則試合の中止	原則、試合は中止、中断、順延とするが、 <u>JSBB 危機管理マニュアル (熱中症項目)</u> の大会運営側の対応ならびに試合中のクーリングブレイクの確保が十分に取られている場合には、主催者の判断において実施することができる。 ※試合中に WBGT33°Cを超えた場合は、試合を中止または中断する。
28°C～30°C 嚴重警戒 激しい運動は中止	—	嚴重警戒	<u>JSBB 危機管理マニュアル (熱中症項目)</u> に準じて試合を実施することができる。

【補足】

※JSBB 危機管理マニュアル (熱中症項目) については、赤線□で囲んでいる内容が該当となる。

※熱中症特別警戒アラートが発表された時には、大会本部にて実施検討会議を行う場合がある。

■全国大会における WBGT の計測の実施

<p>➤ 学童少年部の全国大会において WBGT 計による計測を行う</p> <p>① WBGT 計測は、大会運営側が下記の要領で実施し、今後の熱中症対策の指標として活用する。</p> <p>② 計測は、競技日ごとに全会場、全試合で実施する。</p> <p>③ <u>1 試合における計測は、6 イニングならびに 7 イニングでの試合の場合は、試合前・2 回、4 回終了後・試合終了後の 4 回とする。</u> ※試合前の計測する時間は、できる限り試合開始時間の直前とする ※タイブレーク方式、延長戦の場合は、2 イニングごとに計測を行う</p> <p>④ WBGT 計測器を地上から 1.1m～1.5m の高さで計測する。活動に支障がなく、運動実施個所になるべく近いところにする。</p>
--

■熱中症の予防対策

<p>大会運営側の対応</p> <p>➤ 救護所を準備する。</p> <p>➤ 球場には常時 WBGT 計測器を準備し、適時確認し選手の健康面に気を配る。</p> <p>➤ ベンチでは選手、指導者を取りまくスペースに日射を遮る環境を整える。</p>
--

- 緊急時に備え、氷、スポーツドリンク、経口補水液を準備すること。
- 審判、運営スタッフ、関係者等にスポーツドリンクを用意すること。
- 選手、保護者および観客等がスポーツドリンクを購入できる環境を整備する。万が一、施設内に自動販売機やスポーツドリンクが購入できない環境にある場合は、事前に参加者に周知すること。
- WBGT25°C以上が予測される場合、医務室および医務スペース周辺にアイスバス等の全身冷却が可能となるよう準備する。
※アイスバスが準備できない場合は、氷やアイスパックなどで首、わき、足の付け根などの大きな血管を冷やすこと。
- 空調の効いた諸室等を準備する。

■試合当日の対応

- **原則 WBGT31°C以上の場合、試合は開始しない。** ※
※WBGT31°C以上が試合中に予測される場合は①・②を実行し、主催者の判断で試合を実施することができる。
- ① WBGT28°C以上の場合
 - ✓ 6 イニングでの試合の場合は2回、4回終了後に5分間のクーリングタイム（給水タイム・身体冷却タイム）を設ける（3回終了後のグラウンド整備時にも積極的に給水・身体冷却を行うこと）。
 - ✓ 7 イニングでの試合の場合は2回終了時、4回グラウンド整備時に5分間のクーリングブレイク（給水タイム）を設ける。
※タイブレーク方式、延長戦の場合は、2イニングごとにクーリングブレイクを設ける。
 - ✓ 各イニングにて守備時間が20分以上に及ぶ場合は5分間のクーリングブレイクを取ることができる。
- ② WBGT25°C以上の場合、守備時間が20分以上及ぶ場合は、5分間のクーリングブレイクを取ることができる。
 - 食欲不振、寝不足、体調不良者など選手の体調変化に目を配り、熱中症にならないよう最大限配慮する（大会運営や試合進行など）。
 - 試合中に熱痙攣になった場合、一時的（5分程度）に休息し様子を見る。試合中に同じ症状が出た場合は選手交代を促す。
 - 試合中に熱中症（中程度～重度）となった場合は速やかに選手を交代し医務室へ搬送する（保護者およびチーム関係者のいずれかが選手に帯同する）。
 - クーリングブレイク（給水タイム）について
クーリングを目的としているため日射を遮り、風通しの良い環境を作り休ませる。
冷却として氷嚢、冷却水で顔や頭、首やわきの下、鼠径部を冷やす。
冷却、給水に当てているため、指導者による作戦タイムとして活用しない。

■その他、対応が望ましい熱中症予防対策

- 散水設備が整う会場では、可能な限り内野地域に散水を行い、グラウンド温度を下げることを望ましい（人工芝グラウンドの場合は、実施なし）。
※6イニングの試合の場合は、試合前・3回終了後とし、7イニングの試合の場合は、試合前・4回終了後に実施する
- 両チームベンチ内に扇風機を設置することが望ましい。
- 試合時間は、可能な限り、WBGT値が高くなる時間帯（12時～16時）を避ける。
- 活動時間は極力短縮し、1日を通した活動を控える（*特に小中学生は注意を払う）。
- 試合中、ベンチ内外を問わず、ネッククーラーの使用を認める（接触等で破損しない素材の製品のみ使用可）。